

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉県立国分高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 272-0831

千葉県市川市稲越町 3 1 0

E-mail kokubun-h@chiba-c.ed.jp

Website http://cms1.chiba-c.ed.jp/kokubun-h/

幼児児童生徒数 男子 449 名 女子 521 名 合計 970 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「Think Globally, Act Locally.」を活動テーマとして、ESD を本校が到達すべき教育目標と捉え、ESD の実践を通し国際社会で主体的に生きていく力を育成することを目標としている。

具体的には、世界に目を向け国際的視野を広げる教育、地域社会との交流を柱に、①地域社会との交流に係わる活動、②国際的な視野を広げる教育③地域の環境問題に係わる活動、④幼児・児童教育に係わる取り組みを行っている。

① 地域社会との交流に係わる活動

本校は、市川市に位置しており、市川市ユネスコ協会と関わりを持ってユネスコスクールの活動に取り組んでいる。書き損じハガキの回収を全校で行い、天文部は近隣の国分川の水質調査を実施し、市川市ユネスコ協会主催の報告会で結果を発表している。また、吹奏楽部やバトントワリング部は、地域のイベントで活動を披露し、地域新聞でも両部の活動が紹介されている。吹奏楽部は、この 3 月に市川市で定期演奏会を開き、多くの市民が鑑賞した。

② 国際的な視野を広げる学習

本校は、海外修学旅行を実施しており、今年度の行き先は台湾であった。台湾では、現地の姉妹校を訪問し、交流活動を行った。また、故宮博物院見学や京劇鑑賞を通して、中国文化に触れた。クラス別研修では、烏来、十份、猫空そして九份を訪れ、景観を楽しんだ。事前学習では、池袋にある日本語学校のメロス言語学院の台湾からの留学生に本校に来てもらって、生徒に台湾の生活習慣や中国語について教えてもらった。事後学習として写真アルバムを作成し、姉妹校の生徒と本校の生徒でメールがやりとりされた。修学旅行の他にもタイやマレーシア派遣に参加する生徒も出てきている。

③ 地域の環境問題に係わる活動

天文部では、学校の近くを流れる国分川の水質をここ5年間、継続して調査している。国分川は、かつては全国でも水質の汚染が進んだ川の一つであった。これは、生活排水が、浄化槽を通してそのまま国分川に流れ込んでいることが原因である。最近では、水質の改善がみられるとはいえ、江戸川と比較しても水質は汚染している。天文部は、水質調査を継続的に行うことにより、原因究明と水質の改善策について部員が考えるようになってきている。

④ 幼児・児童教育に係わる取り組み

家庭科の授業では、2学期にふれあい交流として、来校した近隣の乳幼児とその保護者と交流する機会を設けている。また、夏休みには近隣の稲越小の寺子屋教室で生徒が小学生の学習をサポートしている。



① バトントワリング部



③ 国分川の水質調査

② メロス学院との交流



④ ふれあい交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特定の書籍やウェブサイト限定せず、様々な資料を適宜活用した。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の学校教育目標の一つに、「ユネスコスクール加盟校として、国際社会に貢献できる生徒を育成する。」ということが掲げられており、教育課程でも重点を置いている。英語では、英語によるコミュニケーション能力の向上に努めている。地歴公民については、地理では地理新聞を作成させている。現代史研究で国際問題の歴史的背景を学んでいる。倫理や現代社会では、ディベートなどを取り入れて、議論する力の向上を図っている。家庭科では、環境問題や食の問題を重点的に学習している。そして総合的な学習で、海外に駐在して仕事をした元企業人の方をお招きして、生徒にその経験を語ってもらう機会を設けている。他にも総合的な学習では１学年では生徒が自らテーマを選んで調べ学習を行っている。生徒に自発的な学習を促すことが、国際社会で活動することにつながっていくことになる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

職員の組織としてユネスコスクール委員会を設けている。各学年から職員を出し、職員間の共通理解を図るようにしている。生徒については、各クラスからユネスコ係２名を選出し、短期留学生の受け入れ、募金活動、メロス言語学院の生徒の交流などで役割を決めて活動をしている。また生徒によるＥＳＤの活動の発表については、ユネスコ係に限定せず関心のある生徒が参加できるように学校全体で呼びかけをしている。また図書委員会は、幼稚園や老人ホームで本の読み聞かせを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部ではユネスコスクール委員会で活動についての総括を行っている。外部では、ユネスコアジア文化センターに報告書を提出している。以前は、千葉県ユネスコ協会に活動報告を提出していた。こうしたことにより、本校のユネスコスクールの活動を全体的に把握することができたことが成果と言えよう。これにより職員間の共通理解をさらに進めることと学校全体で活動に取り組む体制を構築していくことが課題として浮かび上がってきた。また活動のための予算を確保することも課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

まず本校のホームページに本校のユネスコスクールの活動を掲載している。また天文部は、市川市ユネスコ協会主催の発表会で水質調査について報告している。また本校は、千葉県教育委員会からグローバル人材プロジェクト推進校に指定されており、教育委員会のホームページに本校の活動が掲載されている。中学生対象の学校説明会でも本校の特色の一つとしてユネスコスクールの活動に触れている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

本校は海外修学旅行を実施しており、過去数年間は台湾を訪問している。そこで、修学旅行に向けて1, 2年生向けに台湾の歴史や文化、生活習慣、語学などを学習する事前学習を行っている。事前学習を行うに当たり、メロス言語学院(池袋)の台湾人留学生にガイダンスを依頼している。今年度は、学校交流会の企画や語学指導についても協力を依頼し、実際の修学旅行では、新店高級中学校の生徒達と中身の濃い交流をすることができた。メロス言語学院の交流・協働は今後も継続していきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本校は、台湾・新店市にある新店高級中学校の姉妹校であり、毎年、修学旅行で訪問し交流を深めている。今年度は、修学旅行中の半日を交流会にあて、全体会での文化交流やクラス別交流会を行った。台湾の高校生との交流は中国語、英語、日本語を介して行われ、本校の生徒達も多くの刺激を受けた。また、帰国後もグリーティングカードを交換するなど、交流が継続している。このように、新店高級中学校との交流は、本校の生徒達にとって貴重な海外経験の機会を与えてくれている。

(補足) 台湾は、ユネスコに加盟していないため、新店高級中学はユネスコスクールではありませんが、国際交流などESDの活動にも取り組んでいる学校なので、ユネスコスクールの内容とも一致する学校として、新店高級中学との交流を記載しました。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールに加盟したことによって国際交流の機会は増えた。まず、アメリカからの高校生の短期留学の受け入れを毎年実施するようになった。海外派遣に参加する生徒や職員も増え、今年度はタイのモンクット王トンブリー工科大学での短期海外研修に3名の生徒が参加している。職員についても、ユネスコアジア文化センターの韓国への教職員派遣に本校職員1名が参加した。またボランティア活動や地域との交流に関心をもつ生徒も出てきている。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

まず2学年が実施する台湾修学旅行の準備、実施そして事後指導に2学年を中心として取り組んでいきたい。メロス言語学院の生徒に事前学習で協力してもらうことを予定している。また1学期にはアメリカからの高校生の短期留学の受け入れの依頼があれば、それに応えて受け入れをしたい。2学期には、海外で働いたことのある元企業人の方をお招きするディレクトフォースを総合学習の時間で実施をしたい。地域社会との関わりでは、稲越小で夏季休業中に実施される寺子屋教室に生徒を参加させたい。これは、高校生が小学生の学びを手助けする活動である。部活動では、吹奏楽部、バトントワリング部が、地域のイベントに積極的に参加して活動を披露することにより、イベントの実施に協力したい。演劇部や図書委員会は、幼稚園などで絵本の読み聞かせを行いたい。家庭科の授業では、乳幼児とのふれあい交流に取り組みたい。また生徒であれ職員であれ、海外に派遣される機会があれば、積極的に参加したい。そして少しでも多くの生徒がユネスコスクールの活動に参加できるように努力をしていきたい。